

第13回 核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究ワーキンググループ 議事録（要録版）

日時 2013年12月6日（木） 14時00分～17時00分

場所 大手町ビル 7階 電力中央研究所 第1会議室

出席者（敬称略，順不同）

主査：

池田泰久（東工大）

副主査：

村松 健（東京都市大）

幹事：

深澤哲生（日立 GE），阿部仁（JAEA）（記）

委員：

青柳春樹（JNFL），池田昭（東芝），澤田佳代（名大），玉置等史（JAEA），

塚田毅志（電中研），平野光將（JNES/東京都市大），眞部文聡（MHI），森岡信男（MMC）

オブザーバ：

久野祐輔（JAEA/東大），松岡伸吾（JNFL）

配付資料

- ・ 議事次第
- ・ 資料 13-0 核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究 WG メンバー出欠
- ・ 資料 13-1(1) 第12回核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究 WG 議事録（案）
- ・ 資料 13-1(2) 第12回核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究 WG 議事録（要録版）（案）
- ・ 資料 13-2 核燃料サイクル施設シビアアクシデント研究ワーキンググループサブ
- ・ 資料 13-3 （全体報告書案） “1. はじめに”
- ・ 資料 13-4(1) 参考 Numerical targets and legal limits in SAP for Nuclear Facilities, An Explanatory Note, December 2006.
- ・ 資料 13-4(2) （1992年版 SAP からの抜粋）
- ・ 資料 13-5 報告書（案）

議事概要

1. 主査挨拶と配布資料の確認
2. 前回議事録の確認（資料 13-1(1), 13-1(2)）
コメント等があれば幹事まで集約頂くこととした。
3. 重大事故の定義について（資料 13-2）
村松副主査から，資料 13-2 を用いて，サブワーキンググループの経緯や検討内容についての

報告がなされた。国が重大事故を定義したことを踏まえて、SAWGでの趣旨・進め方をもう一度議論し明確化したい。引き続き以下の議論がなされた。

- 国が重大事故を定義しているという前提で進め方を考えるのは適切か。
- 国が明確にしていない部分を解説する必要があるのではないか。これが学会に期待されることではないか。影響の大きさだけではなく頻度の観点も重要であることを学会として言及することが重要と考える。
- 学会として、重大事故の判断基準として何らかの数値を定義することは難しい。発生頻度が低いものをどのように考えるのかがポイントである。SAPのような考え方を取り入れることの重要性を示すことは賛成である。
- SAWGでは、重大事故の判断基準を数字として定義するということはやめて、客観的な選定方法を議論し示すことにしたはずである。それが結果として事業者の行った評価結果の妥当性の判断に活用されるという流れになるものとする。
- 国の重大事故の定義に対してSAWGとしての考え方をまとめることで、結果的に事業者も活用できることになるのではないか。

4. SAPでの公衆への影響に対する考え方の紹介（資料13-4(1), 13-4(2)）

村松副主査から、資料13-4(1)及び13-4(2)を用いて、SAPにおける公衆への影響に対する考え方についての紹介があった。従来の100TBqCs相当という考え方を100人以上の死亡という考え方に変更している。新規基準で求められている重大事故対策の妥当性評価のための判断基準について検討する上で参考になるものとする。

5. 報告書案の検討（資料13-2, 13-3, 13-4）

玉置委員及び阿部幹事から、資料13-3及び13-4を用いて、現状での報告書案について説明があった。以下の議論があった。

- 資料13-2の目次案での標題を「再処理施設重大事故の選定方法の提案と課題」にしてはどうか。“重大事故”という文言は法令で定義された言葉である。報告書では、ワーキンググループ名にあわせて“シビアアクシデント”に変更し統一してはどうか。
- 報告書での記述には、可能な限り外的事象を取り入れることにしたい。

6. 次回及び次々回日程

次回（第14回）

日時：12月27日（火） 9:30～12:00

場所：秋葉原ダイビル18階 第2会議室

以上